

## 心の復興をめざして

宮城県教育委員会 教育長 高橋 仁

東日本大震災から五年の歳月が過ぎようとしています。震災によって、一人を越える方々の尊い命が失われました。とりわけ、多くの次代を担う子供たちが犠牲となったことは痛恨の極みです。二度とこのような犠牲者を生むことのないよう、今回の大震災の教訓を風化させることなく、防災への意識と行動力を高めていかなければならないと考えています。

震災直後の大混乱の中で、避難所の設置や運営に積極的に協力した多くの中学生、高校生がいました。また、先生方は、自らが被災者であったにもかかわらず、昼夜を分かたずに避難所となった学校の運営にあたるとともに、学校再開のために力を尽くしていただきました。あの時の子供たちや先生方の姿は、今でも鮮明によみがえってきます。

私たちは、大きな困難に遭遇した時に、お互いに支え合い、それぞれの立場で自らができることをやっていくことで、その困難に打ち勝つことができるということを、この震災を通して改めて学びました。このことを手がかりとして、これからも郷土の復興・再建に力を発揮できる人づくりを推進していかなければなりません。

一方、東日本大震災で失ったものは極めて大きく、人々の心に深い傷を残しました。このことを踏まえ、県教育委員会では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家の力を借

りながら、被災した子供たちの心のケアに取り組んできました。今後とも心のケアについて、継続した取組を進めていきたいと考えています。

時間の経過とともに、震災当時の状況やその時の心情などについて話すことができるようになった子供たちも出てきています。震災から五年目となるこの時期に、震災からこれまでの生活を振り返り、その経験から学んだことや実践してきたこと、現在の自分の心境や今後の自分の生き方等について文章に表すことは、自己の成長を確認し、震災を乗り越えて前に進む力となるものと考えています。また、それらを記録集としてまとめることは、震災を経験した子供たちの心の軌跡の記録を後世に伝えるとともに、将来災害が発生した際に、先生や大人が対応するに当たって大いに参考になると考えます。

このような考えのもとに、県内の小・中・高等学校に、「東日本大震災後の自分を振り返る活動」をお願いし、今回、県内の学校から一〇六点を「心の復興記録集『東日本大震災を乗り越えて』」として発刊することとなりました。

ここに収められた作文には、宮城の子供たちが、震災とどう向き合い、何を学び、今後どのような志をもって生きていこうとしているのかが率直に表現されています。この「心の復興記録集」が、学校関係者だけでなく、一人でも多くの皆様に読んでいただき、子供たちの思いを受け止めていただく一助となれば幸いです。

未来の宮城を担う子供たちが、震災から学んだ教訓を糧として、東日本大震災を乗り越え、志をもって、よりよい未来に向けて進んでいくことを心から願っています。